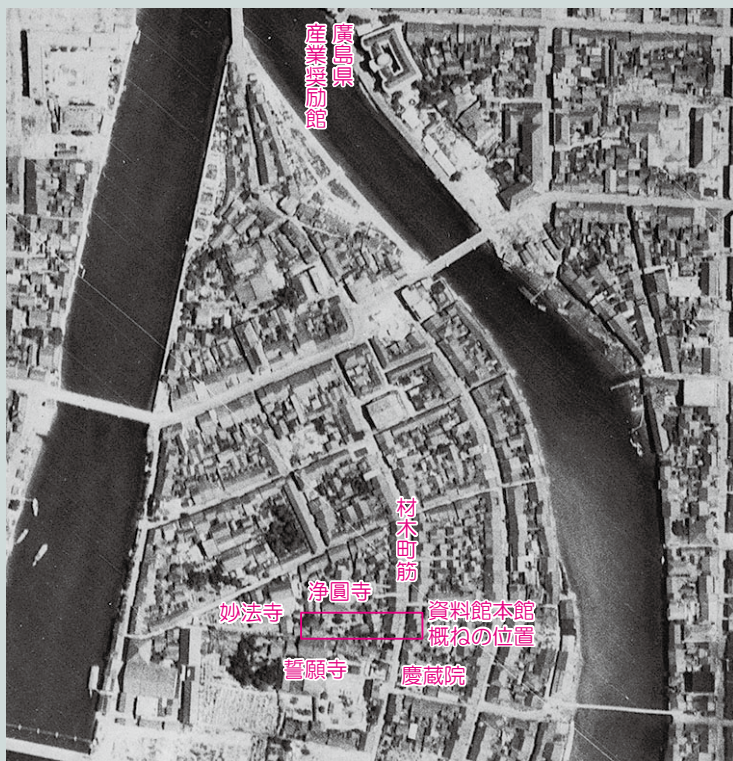


広島平和記念資料館発掘調査 現地説明会

広島平和記念資料館本館の周辺は、被爆当時は材木町と呼ばれた地域で、寺院や民家、商家などが立ち並んでいました。本調査は、広島平和記念資料館本館の耐震化工事に先立ち、地下に残る旧材木町の遺構等を調査し記録することを目的に実施しています。

調査範囲は工事によって掘削される東西約85m 南北約25m で、中央参道よりも東側（東側調査区）と中央参道を含む西側（西側調査区）に分け、東側は平成27年11月から平成28年5月まで調査を実施し、西側は平成28年9月から調査を開始しました。

これまでの調査の結果、地下約70cm前後において材木町筋と呼ばれた道路、石列、建物の基礎や土間など、被爆時の街並み（「被爆面」と言います）を確認しました。また、東側調査区では現在の地面から自然堆積層が出土する地下約2mまで調査を行った結果、江戸時代初めから被爆時まで概ね7時期の街並みが連綿と積み重なっていること、その中で最も古いものは広島城下町が築かれた16世紀代に遡る可能性があることが明らかになりました。



被爆前中島地区航空写真
米軍撮影空中写真（U5M335CNB-49）を一部加工して使用

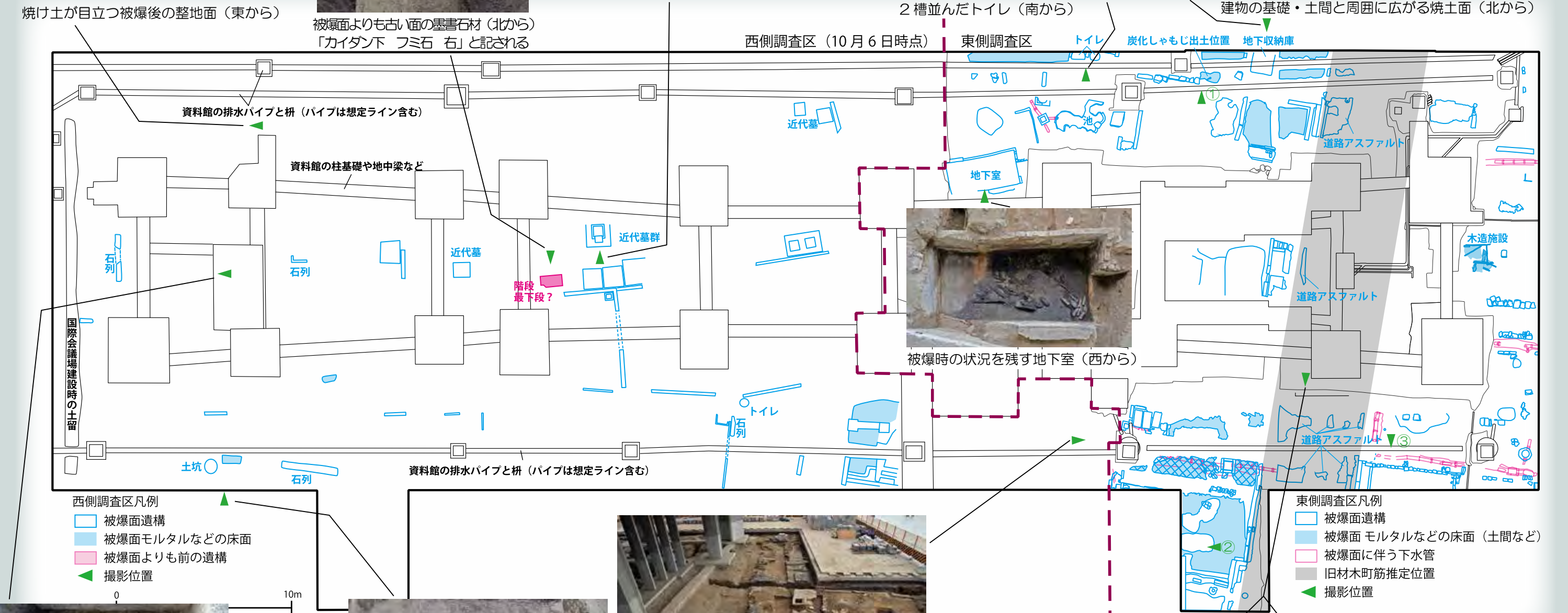


炭化したしゃもじ・金属製品出土状況（東側調査区北側・南から ▲①）

西側調査区（平成 28 年度調査）



東側調査区（平成 27 年度調査）



平成 27 年度は、東側約 3 分の 1 の調査を行いました。平成 28 年度は西側の調査を実施しており、現在、被爆面を確認しています。

出土遺物



被爆瓦（東側調査区）



溶けた牛乳びん（東側調査区）



地下室に置いてあったビール瓶（東側調査区）



江戸時代初め頃の食器類（東側調査区）

城下町が作られた時代へ ～被爆以前の遺構～

調査では、被爆面よりも下層の発掘も行っています。その中で、右の写真に見られる誓願寺のものと思われる石垣も確認されました。誓願寺は、天正 18 年（1590）10 月の開基とされ、出土遺物の時期もふまえると、最下面は広島城が築城された頃（1589 年築城開始）にさかのぼるものと考えられます。延宝 4 年（1676）に記された誓願寺阿弥陀如来の縁起（『広島市史 社寺編』1924 所収）によれば、寺を建てる時には『苧葦蘆之林、埋泥土之深』（生い茂るヨシの林を刈り、ぬかるむ泥を埋め）とあり、洲の上に町を築いていった様子がうかがえます。また、誓願寺東隣の慶蔵院や調査区の北側に位置する浄圓寺も慶長年間（1596～1615）の開基とされており、寺を中心に町名の由来ともなった材木商などの活躍と共に発展した町がしのべれます。



被爆面よりも下層の石垣
（東側調査区南側・東から ◀②）



何層にも重なる地層（東側調査区南側・北から ▼③）

お問い合わせ：（公財）広島市文化財団 文化科学部 文化財課

〒 732-0052 広島市東区光町二丁目 15 番 36 号 TEL 082-568-6511 E-mail : hbb@mogurin.or.jp